

総務省からの お知らせ

保護者の皆様へ

お子様が安心安全にスマートフォンを利用するために

満18歳未満のお子様にスマートフォン等インターネット接続機器を利用させる場合、
保護者の方は次の点に十分注意してください。

1 適切にインターネットを利用する

SNSを利用して子供たちを言葉巧みに誘い出し、事件やトラブルに巻き込まれる深刻な事案が発生しています。インターネットに関する知識、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけ、正しく利用することが重要です。

2 家庭のルールを作る

長時間利用によるネットの依存症も増加しています。
適切な生活習慣が身につけられるように、お子様と一緒に話し合い、それぞれのご家庭のルールを作りましょう。利用時間は夜9時まで、ルールは具体的に決めることがポイントです。

3 フィルタリングなどを設定する

「フィルタリング」は、知識が十分でないお子様が、不用意に違法・有害サイトにアクセスしないよう制限する機能です。子供たちが事件・事故に巻き込まれないようにスマートフォン等には必ず「フィルタリング」を設定してください。

○ 実際に起きたトラブル事例をもとに、

予防法と対策法をまとめた「インターネットトラブル事例集」も活用ください。

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

総務省インターネットトラブル事例集

検索



本件に関するお問い合わせ先 総務省 北海道総合通信局 情報通信部 電気通信事業課 ☎011-709-2314（内線：4704）

ヤングケアラー支援ガイドラインを策定しました

札幌市では、ヤングケアラー支援を円滑に進めるため、令和5年1月に、ヤングケアラー支援の在り方や連携スキームを示した「ヤングケアラー支援ガイドライン」を策定しました。

ガイドラインは札幌市公式ホームページに掲載していますので、活用ください。

ダウンロードはこちら

<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/documents/youngcarershienguideline.pdf>



困ったときは

下記相談窓口では、ヤングケアラーをはじめ、さまざまな子どもや若者に関する相談に応じています。

18歳未満の子ども (高校3年生含む) 子どもアシストセンター (子どもの権利救済機関)

受付時間(日祝年末年始休)
月～金曜日/10:00～20:00
土曜日/10:00～16:00
電話 0120-66-3783 子ども専用
011-211-3783 大人用
Eメール assist@city.sapporo.jp



▲ LINE
(子ども専用)



おおむね 15～39歳 札幌市 若者支援総合センター (Youth+センター)

受付時間(日祝年末年始休)
月～土曜日/10:00～18:00
電話 011-223-4421
Eメール sapporo-saposute@syaa.jp



▲ LINE

発行

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館3階
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943

札幌市公式HP「子どもの権利」のページ



Eメール

kodomo.kenri@city.sapporo.jp



<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>



令和5年(2023年)3月発行



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

第28号
令和5年3月発行

子どもにとって大切な権利
・安心して生きる
・自分らしく生きる
・豊かに育つ
・参加する

令和4年度 子ども議会 活動報告

子ども議会は、子ども議員となった子どもたちが主体的に札幌市のまちづくりについて話し合い、発表する活動を通して、市政への子どもの参加及び意見表明の機会として、平成13年度から毎年実施している取組です。

今年度は、市内の小・中学生の子ども議員23人と、高校生・大学生サポーター9人が参加。市長への報告を行い、令和4年度の活動を終了したので、活動内容を報告します！

子ども議員活動

今年度のテーマは「ヒグマ対策」「観光」「救急医療」「いじめ相談」「森林」の5つ。グループにわかれ、テーマに関連する部局の市職員との勉強会を通して学び、計4回の議会活動で話し合いを重ね、市や市民ができることについてグループの意見をまとめました。

▼ 子ども議会の様子
活発な話し合いが行われました



子ども議員がまとめた意見概要

テーマ	概要
ヒグマ対策	ヒグマと共存していくために、草刈りや電気柵の設置等の対策を実施するとともに、学校の授業の中でヒグマへの対応方法を学ぶ機会をつくる。
観光	幅広い年代が安全・安心な観光をできるように、観光客向けホームページについて、子どもにも分かりやすい内容や、観光地の混雑状況・気象情報の掲載等の改善をする。
救急医療	救急搬送時の救急隊と病院の連絡を円滑に行うために、音声入力機能付きの救急隊アプリをつくる。
いじめ相談	子どもが相談しやすいように、いじめに関するアンケートを子どもが記載しやすい内容に変更するとともに、スクールカウンセラーへの相談方法を改善する。
森林	自然とのふれあいや森林の適切管理のために、木材を活用したイベントの実施や、学校の授業の中で木材や森林について学ぶ機会をつくる。

市長報告会

令和5年1月11日(水)、子ども議員がまとめた意見について、秋元市長へ発表を行いました。

市長への発表とあって、緊張した面持ちの子ども議員とサポーターでしたが、市長から「色々調べ、提案をしてくれたことに、感謝申し上げたい。今日の提案を実現できるようにしていきたい。みなさんも疑問に思っていることや、もっとこんなことがあったらいいんじゃないかなというようなことを、引き続き自分事として考えてもらったり、この活動をきっかけに色々取り組んでもらえると、なおありがたい」と言葉をもらい、報告会后には「市長の前で緊張したけど楽しかった!」と笑顔がはじけました。



▲ 市長報告会の様子

参加者の声

- ★ 他学年と交流して意見を言い合ったり、協力して活動できる楽しさを感じられた。
- ★ 学校以外で同年代の人と、難しい問題、札幌市のことについて考えられて楽しかったし、自分たちで解決しないといけないと思った。
- ★ わからなくても同じグループのみんながわかりやすく説明してくれて、頭に入ってきたし、やりやすかったので、このチームに入って良かった。

市長報告会の様子は札幌市YouTube公式チャンネル「SapporoPRD」で公開中です。

https://youtu.be/ZukdKV_TYAY



さっぽろのまちづくりに 子どもの声を届けよう！

子どもの 提案・意見募集ハガキ

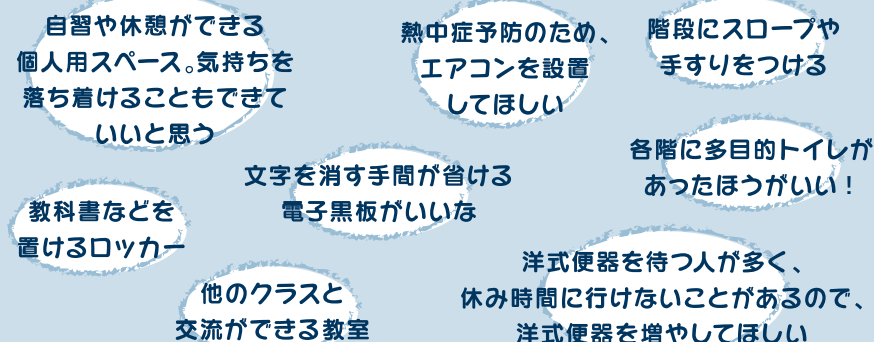
テーマ1 だれもが快適に過ごせる学校施設って、 どんなものだろう？

みなさんが、もっと快適に学び、過ごせる学校になるように、みなさんから意見を募集。いつも学校で生活している子どもたちから、現状を踏まえた意見をたくさんいただきました。

特に多かったのはエアコンの設置やトイレの改修など、学校の中でも使用する頻度の高い場所を改善してほしいといった意見。次いで、スロープの設置などのバリアフリー化、休憩室や自習室などを希望する声、体育館・グラウンドの改修などの意見が続きました。このほか、電子黒板やホワイトボードにしてほしい、机を大きくしてほしいといった意見もありました。

* トイレ・水道について	61件
* エアコンの設置	53件
* 校内のバリアフリー化	39件
* 教室の新設や改築等	38件
* 体育館・グラウンドの整備	28件
* 教室設備(黒板、机の新調)	23件
* その他(ロッカーなど)	39件

みんなの意見の一部を紹介！



札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を生かす取組を進めています。子どもたちの声を札幌のまちづくりに届ける取組として、例年実施している「子どもの提案・意見募集ハガキ」について紹介します。

子どもからの提案・意見募集ハガキは、子どもたちから市政やまちづくりについて提案や意見を広く返信用ハガキにより募集する取組です。

今回は「快適に過ごせる学校施設について」および「さぼーとほっと基金の活用について」の2テーマについて、子どもたちから提案や意見を募集。合計200通の子どもたちから意見が届きました。子どもたちから届いた意見やアイデアの一部を紹介します！

★札幌市の考え方(教育委員会学校施設課)

「だれもが快適に過ごせる学校施設」について、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケートでは、「トイレをきれいにしてほしい」、「洋式便器を増やしてほしい」、「教室にエアコンをつけてほしい」などのご意見が多く寄せられました。

その他にも、障がいのある人も利用しやすいよう、「バリアフリースロープをつけてほしい」、「エレベーターをつけてほしい」など、「バリアフリー」を考えたご意見もとても多く寄せられました。みなさん自身のことだけでなく、「だれ

もが」快適に過ごせる学校になるよう、真剣に考えていただいたことに感謝しています。

札幌市には、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校まで、300校以上の学校があります。みなさんが、より快適に学び、安心・安全に学校生活を送れるよう、いつもどこかの学校で、建て替えや、大きな改修をしています。

札幌市は、いただいたご意見を参考にして、「だれもが快適に過ごせる学校施設」ができるよう、これからも取り組んでいきたいと思えます。

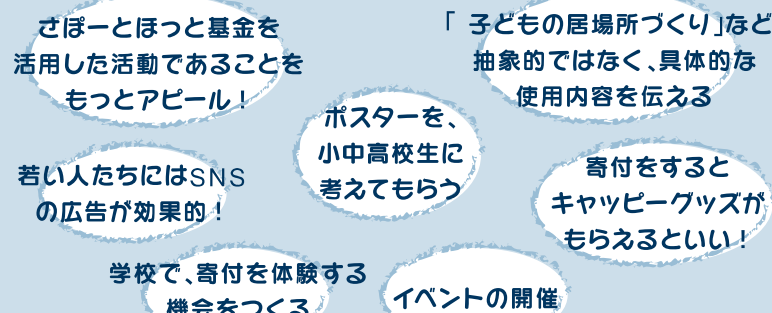
テーマ2 さぼーとほっと基金をもっと活用するためにできることって、なんだろ？

札幌市では、市民によるまちづくり活動を進める取組を行っており、今回はそのひとつ、寄付でまちづくりを応援するしくみ「さぼーとほっと基金」を、もっと多くの市民のみなさんに知ってもらうための方法について意見を募集しました！

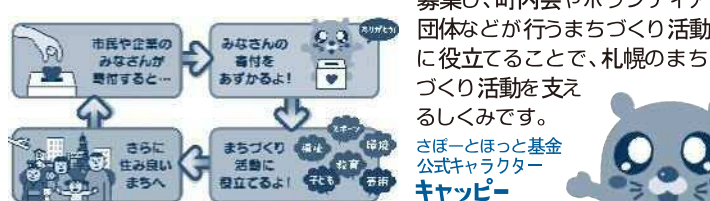
ポスターやチラシ、テレビCMやSNSの利用など、多くの人が興味を持つようなアイデアがたくさん寄せられたほか、学校で学ぶ機会を増やすという提案や、さぼーとほっと基金の活用方法をくわしく紹介するといった意見もありました。

また、さぼーとほっと基金はとてもいい活動なので頑張してほしいといった励ましのうれしい言葉や、寄付金の活用方法のアイデアも多くありました。

みんなの意見の一部を紹介！



さぼーとほっと基金とは？



★札幌市の考え方(市民文化局市民活動促進担当課)

さぼーとほっと基金の活用について、たくさんの方のアイデアをいただき、ありがとうございました。

みなさんから意見が多く寄せられたチラシ・ポスターなどの活用について、現在は、マスコットキャラクター「キャッピー」をデザインに用いた各種広報資料を、札幌市内の公共施設や地下鉄駅構内などに掲示・配架しています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、ここ数年の間はイベント等を通じて直接リーフレットを配布する対面での周知は思うようにできませんでした。今後はこうした

取組も再開していきたいと考えます。

さぼーとほっと基金は、みなさんからの寄付を、市内のまちづくり活動の支援に活用する仕組みです。いただいたご意見を参考に、動画やSNSの活用など、寄付の仕組みや成果などを分かりやすく伝えられる様々な方法を検討し、多くの人に「さぼーとほっと基金」を知ってもらい、応援してくれる方が増えるよう努めていきますので、札幌のまちが、より一層住みよいまちになっていくように、みなさんもぜひ協力してください。